

教育理念と教育目的

社会政策科学科の教育理念は、総合的な視野と市民の視点で政策を構想し、提案できる人材を育成することである。このために、経済学、経営学、財政学、行政学、法律学、政治学、社会学など、社会諸科学の知識を応用し、現代のさまざまな社会問題を発見・分析し、解決するための政策づくりを市民の視点で担える人材を育成するカリキュラムを設置している。

社会問題を発見・分析し、その解決について考えるためには、社会諸科学の理論と方法とともに、問題が生じる具体的な脈絡に沿って学ぶことが重要となる。このため、21世紀の社会においてとりわけ重要な「企業と社会」・「サステナビリティ」・「グローバル市民社会」という3つの視点から、政策の実態を具体的に学べるよう、3つのコースが設定されている。社会政策科学科カリキュラムの全体を通して、人々がより生活しやすい社会をつくるために、理論や分析方法の学修に加え、社会問題の現場での実習を行うことで、行政・企業・NGO・シンクタンクなどの分野で、政策提言ができる力を身につけるよう工夫がなされているので、意欲的に取り組んでほしい。

ディプロマ・ポリシー（学部および学科）

社会学部では「学士（社会学）」の授与に際して、所定の単位の修得と、学部および学科が定める能力の修得を要求している。学科にかかわらず要求されるのは以下の能力である。

1. 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
2. データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
3. 問題解決の方法を構想することができる。
4. それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

社会政策科学科では、学部が指定する上記の要件に加えて、以下の能力を修得した学生に対して「学士（社会学）」を授与する。

1. 経済学、経営学、財政学、行政学、法律学、政治学、社会学などの知識を身につけている。
2. 社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。
3. 課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。

卒業要件

表 1-1 社会政策科学科卒業要件

区分・科目群		卒業所要単位				
総合科目	基礎演習	選択				
	視野形成科目	B 群から選択必修 4 単位以上				
	情報教育基礎	選択				
	保健体育科目	スポーツ総合 1	必修 2 単位			
		スポーツ総合 2	選択			
	外国語	Basic English 1・2	必修 4 単位 (留学生以外)	◆留学生の場合◆ 選択必修 2 単位		
諸外国語初級 A・B		必修 4 単位 (留学生以外)				
日本語 1～3		◆留学生対象◆ 必修 6 単位				
専門科目	学科学科専門科目	入門科目	選択必修 6 単位以上			
		学科共通科目	基礎科目	選択必修 12 単位以上		
			展開科目	選択必修 8 単位以上		
	コース専門科目	企業と社会コース	選択必修 (1つのコースを選択)	A 群	2単位以上	18単位以上
		サステイナビリティコース		B 群		
		グローバル市民社会コース				
	演習	選択				
外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム	選択				
	諸外国語選択科目					
自由選択科目						

注意しよう！

- ◆「入門科目」の卒業所要単位6単位は、2年次までに単位修得しなければならない（3年次への進級要件）。
- ◆各コースに1年次から履修できるコース専門科目（A群科目）が2つずつ設定されている。各コースで扱う問題領域の概略を知ることができるので、ぜひ1年次にさまざまなコースのA群科目を履修してほしい。ただし、卒業には、選択したコースから、A群科目2単位を含めて合計18単位の修得が必要である。1年次に修得したA群科目のコースと異なるコースを選択した場合は、2年次以降に、選択したコースのA群科目2単位を修得しなければならないことに注意しよう。

入門科目

「入門科目」では、社会政策科学科が視座とする学問領域、学問的な方法論ごとに科目が構成されており、それぞれの理論的土台やキーワードを学ぶ。

授業科目	単位数	履修年次	備考
社会政策科学入門 A	半期2単位	1～4年次	
社会政策科学入門 B	半期2単位	1～4年次	
社会政策科学入門 C	半期2単位	1～4年次	
社会政策科学入門 D	半期2単位	1～4年次	

入門科目：履修上の注意

入門科目6単位の修得が、3年次への進級要件である。

社会問題や政策にアプローチするための、また2年次以降の学科専門科目を学ぶための共通の前提となることから、この4科目については1年次ですべての科目を履修することが推奨される。

学科共通基礎科目

「学科共通基礎科目」には、政策課題の発見・分析・解決のために必要となる本格的な基礎理論を学ぶ科目を配置している。具体的には、経済学、法学、政治学、社会学等の学問領域を中心に、組織論や社会調査関係の科目が用意されている。

これらをコース専門科目や演習等と並行的に履修することで、現代のさまざまな社会問題に対して、市民の視点から、学問的にアプローチする能力を形成することができる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
政治学理論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
日本経済論	半期2単位	2～4年次	
憲法	半期2単位	2～4年次	
民法（総則）	半期2単位	2～4年次	
民法（財産法）	半期2単位	2～4年次	
ミクロ経済学	半期2単位	2～4年次	
マクロ経済学	半期2単位	2～4年次	
組織論	半期2単位	2～4年次	
政策データ分析実習	半期2単位	2～4年次	
社会学理論AⅠ・AⅡ	半期各2単位	2～4年次	
社会学理論BⅠ・BⅡ	半期各2単位	2～4年次	
社会調査のリテラシー	半期2単位	1～4年次	
特殊講義	半期2単位		

学科共通基礎科目：履修上の注意

卒業所要単位として学科共通基礎科目 12 単位を修得しなければならない。

学科共通展開科目

「学科共通展開科目」には、政策課題の発見・分析・解決に取り組むための能力を養い、政策を形成するうえで基盤となる諸科目を配置している。具体的には、政策の形成・実施に当たって必要となる考え方や手法を学ぶ諸科目を中心に、実習や外書講読などの少人数科目等も用意している。

これらの科目をコース専門科目や演習等と並行的に履修することで、それぞれの問題意識に応じて、社会的な課題について実践的に学習・研究を進め、あるいはその解決の道筋を構築するうえでの基盤となる能力を形成することができる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
財政学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
行政学	半期2単位	2～4年次	
行政法Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
政策と制度	半期2単位	2～4年次	
人的資源論	半期2単位	2～4年次	
政策フィールドワーク実習	半期2単位	2～4年次	
統計調査法	半期2単位	2～4年次	
ソーシャルメディア論	半期2単位	2～4年次	
ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）1A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）1B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）2A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）2B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）3A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）3B	半期2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

学科共通展開科目：履修上の注意

卒業所要単位として学科共通展開科目8単位を修得しなければならない。

コース専門科目

社会政策科学科の学生は、1年次の秋学期に、「企業と社会」「サステナビリティ」「グローバル市民社会」の3つのうちいずれかのコースひとつを選択することになる。

コースの選択は、社会学部事務課へ提出する「コース選択希望登録票」によって行う。「コース選択希望登録票」の提出に先立ち、「入門科目」等でコース選択のためのガイダンスを行うので、授業での案内や掲示に十分注意すること。

2年次以降ではそこで選択した「コース専門科目」を中心に履修することになるが、各コースに1年次から履修できるコース専門科目（A群科目）が2つずつ設定されている。これらでは各コースで扱う問題領域の概略を知ることができるので、ぜひ1年次にさまざまなコースのA群科目を履修し、各コースの問題設定についての理解を深めるとともに、2年次のコース選択に向けた検討材料としてほしい。

もっとも社会政策科学科では、各コースの内容や科目は必ずしも排他的なものではないので、選んだコース以外でも、関連する科目や興味を持った科目は積極的に履修してほしい。

なお、コースは慎重に選択する必要があるが、やむを得ず、選択したコースの変更を希望する場合は、1年次～3年次の3月初旬にコース変更手続き期間が設けられているので、掲示を確認し、期間内に申請すること。

コース専門科目：履修上の注意

卒業所要単位として、選択したコースからA群科目2単位を含めて合計18単位を修得しなければならない。

企業と社会コース

新しい価値を実現するための企業活動や経済・産業政策について、様々な理論と事例を通して体系的に学修していく。近年、企業を取り巻く環境は、人工知能、ロボットなどの「技術革新」、および社会イノベーション、シェアリングエコノミー、地域活性化、多文化共生社会、外国人労働者の活用といった「新しい考え方」の台頭により大きく変化している。本コースでは、複雑化するグローバル／地域の諸課題を理解し、統合的な問題解決を行うための実践知の獲得を目指す。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A群	企業と社会論 A	半期2単位	1～4年次	
	企業と社会論 B	半期2単位	1～4年次	
B群	社会・イノベーション論 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	中小企業論	半期2単位	2～4年次	
	地域産業論 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	産業社会学 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	国際経営論 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	経済政策論	半期2単位	2～4年次	
	社会ネットワーク論 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	広告・消費文化論	半期2単位	2～4年次	
	消費者行動論	半期2単位	2～4年次	
	金融システム論	半期2単位	2～4年次	
	特殊講義	半期2単位		

サステナビリティコース

社会的に重要な政策課題、とりわけ環境と福祉の両面を視野に入れつつ、地球資源の制約のもとで、人がともに支え合うことを通じて、すべての人にとって豊かで、長期的に持続可能な社会のあり方を考える。

地球温暖化、エネルギー、食料、貧困、年金医療、マイノリティ等々の諸問題に対して、地球規模で、またコミュニティレベルで解決を図るため、社会諸科学を駆使して具体的な政策の立案・形成、また実施や評価に主体的に関与する本格的な政策マインドを養成する。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	サステナビリティ論 A	半期2単位	1～4年次	
	サステナビリティ論 B	半期2単位	1～4年次	
B 群	環境経済学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	環境政策論	半期2単位	2～4年次	
	環境自治体論	半期2単位	2～4年次	
	エネルギー論	半期2単位	2～4年次	
	気候変動論	半期2単位	2～4年次	
	福祉社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	社会保障法Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	環境社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	コミュニティ・デザイン論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	臨床社会学Ⅰ	半期2単位	2～4年次	
	家族社会学Ⅱ	半期2単位	2～4年次	
	特殊講義	半期2単位		

グローバル市民社会コース

グローバル化が複雑に進行する現代世界において、自分たちの手でよりよい市民社会を築いていくための知識と実践を学ぶ。とくに世界の多様性の理解、世界経済のダイナミクスの理解、市民社会を支える法・行政制度と団体活動の理解に重点を置く。

世界の多様性を理解するための文化・文明論的視野、世界経済のダイナミクスを理解するための国際経済学的視野、市民社会の構築と向上に必要な行政学、社会学的視野を複合的に学修する。複数の語学や実習的科目の履修も推奨する。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	グローバル市民社会論 A	半期2単位	1～4年次	
	グローバル市民社会論 B	半期2単位	1～4年次	
B 群	グローバル社会のローカリティ	半期2単位	2～4年次	
	市民運動論	半期2単位	2～4年次	
	地方財政論	半期2単位	2～4年次	
	地方自治論 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	国際政治論	半期2単位	2～4年次	
	国際協力論	半期2単位	2～4年次	
	イスラム社会論	半期2単位	2～4年次	
	国際経済論 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	国際関係論 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	国際社会学 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	国際法	半期2単位	2～4年次	
	特殊講義	半期2単位		

履修モデル

図1-1には、社会政策科学科を卒業するために、各科目群からどのように単位を修得すればよいか、年次ごとの標準的なモデルを示した。履修計画を立てる際に参考にしてください。

図1-1 社会政策科学科を卒業するまで（単位修得パターンの例示）

卒業するには		学部共通		ゼミ	学科別カリキュラム		その学年で修得する単位数
総合科目を30単位 → 基礎演習・視野形成科目（B群4単位含む）・情報教育基礎・保健体育科目・外国語 学科専門科目を74単位 → 入門科目・学科共通基礎科目・学科共通展開科目・コース専門科目と演習1～3 自由選択科目を最低20単位 → 総合科目・所属学科専門科目の修得単位のうち卒業要件単位数を超過した分は自由選択科目となる 外国語教育プログラム科目・他学科専門科目も自由選択科目となる 公開科目・グローバル教育センター設置科目・教職教科に関する科目の一部も自由選択科目となる 合計124単位以上を修得							
1年次	必修 Basic English 1-I・II 2単位 必修 諸外国語初級 A・B 4単位 必修 スポーツ総合 1-I・II 2単位 選必 視野形成科目 6単位 情報教育基礎科目 4単位 計 18単位	基礎演習 I・II 4単位 計 4単位	選必 入門科目 8単位 選必 コース専門科目（A群）【※1】 6単位 計 14単位	4単位を 学科共通基礎科目、 コース専門科目（A群）等でプラス	総合科目 22単位 学科専門科目 14単位 プラス 4単位		
2年次	必修 Basic English 2-I・II 2単位 選必 視野形成科目 4単位 外国語教育プログラム科目 - 計 6単位	演習 1 4単位 計 4単位	選必 学科共通基礎科目 10単位 選必 コース専門科目（A群・B群） 10単位 選必 学科共通展開科目 4単位 計 24単位	6単位を 学科専門科目、 他学科の専門科目等でプラス	総合科目 6単位 学科専門科目 28単位 プラス 6単位		
3年次	選必 視野形成科目 2単位 外国語教育プログラム科目 - 計 2単位	演習 2 4単位 計 4単位	選必 学科共通基礎科目 4単位 選必 コース専門科目（A群・B群） 10単位 選必 学科共通展開科目 6単位 計 20単位	14単位を 学科専門科目、 他学科の専門科目等でプラス	総合科目 2単位 学科専門科目 24単位 プラス 14単位		
4年次	外国語教育プログラム科目 - 計 -	演習 3 8単位 計 8単位	学科共通基礎科目 - コース専門科目（A群・B群） - 学科共通展開科目 - 計 -	40単位以内で 学科専門科目、 他学科の専門科目等をプラス	学科専門科目 プラス 40単位まで		
					「プラス」の単位数が自由選択科目の単位となる【※2】	総合科目 30単位 学科専門科目 74単位 プラス 20～64単位	

【※1】 1年次の秋学期に選択するコースのA群科目が選択必修科目となる。
 【※2】 外国語教育プログラムでプラスすることも可能。

図1-2～図1-3には、社会政策科学科のカリキュラムで提供される科目によって、どのような能力が身につく、将来とどう結びつくのかをイメージしやすくするため、卒業後の進路を想定した科目履修の組み立て方を例示したので参考にしてほしい。

図1-2 履修モデル：問題解決能力をもつ企業人を目指す

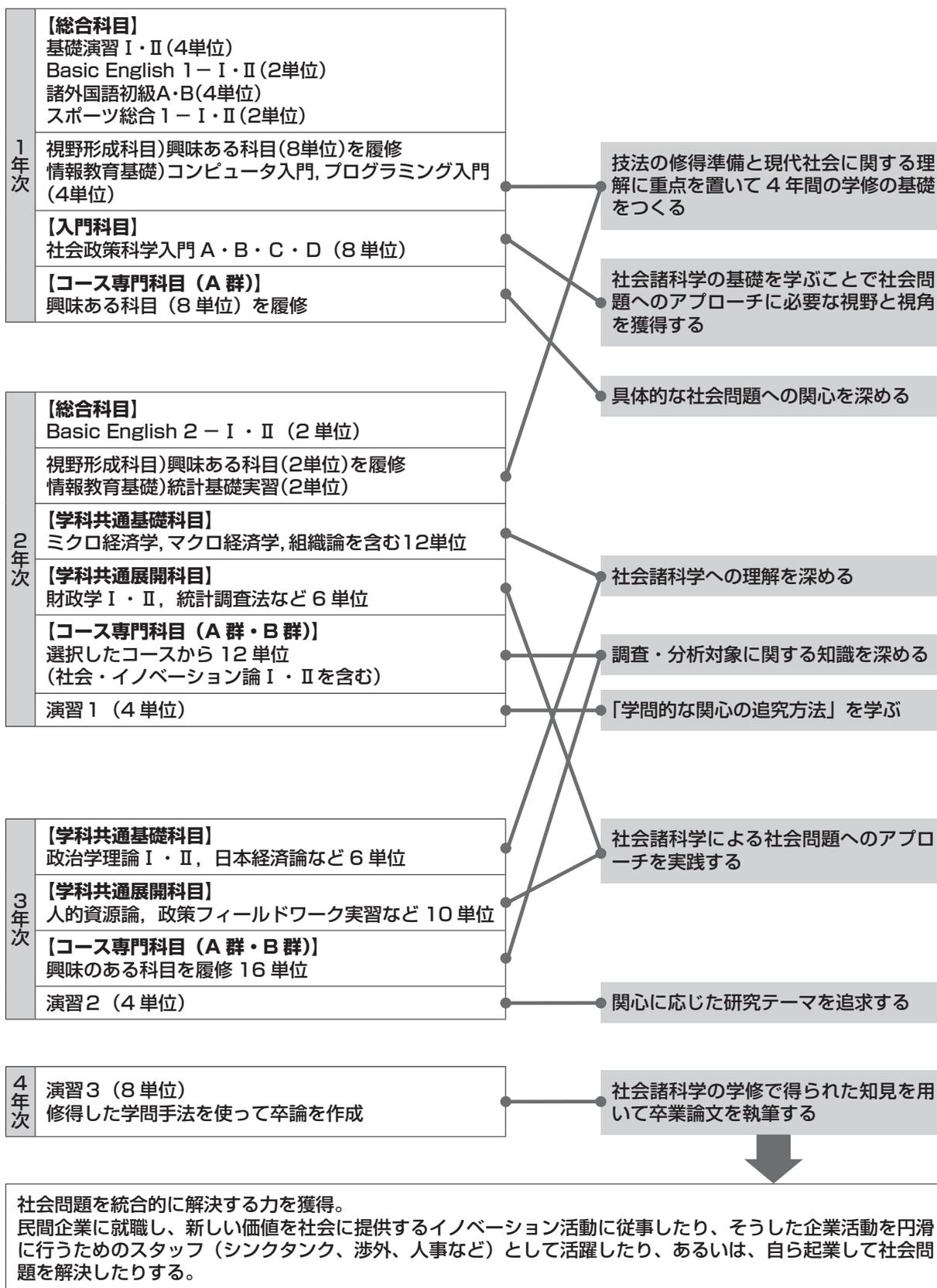
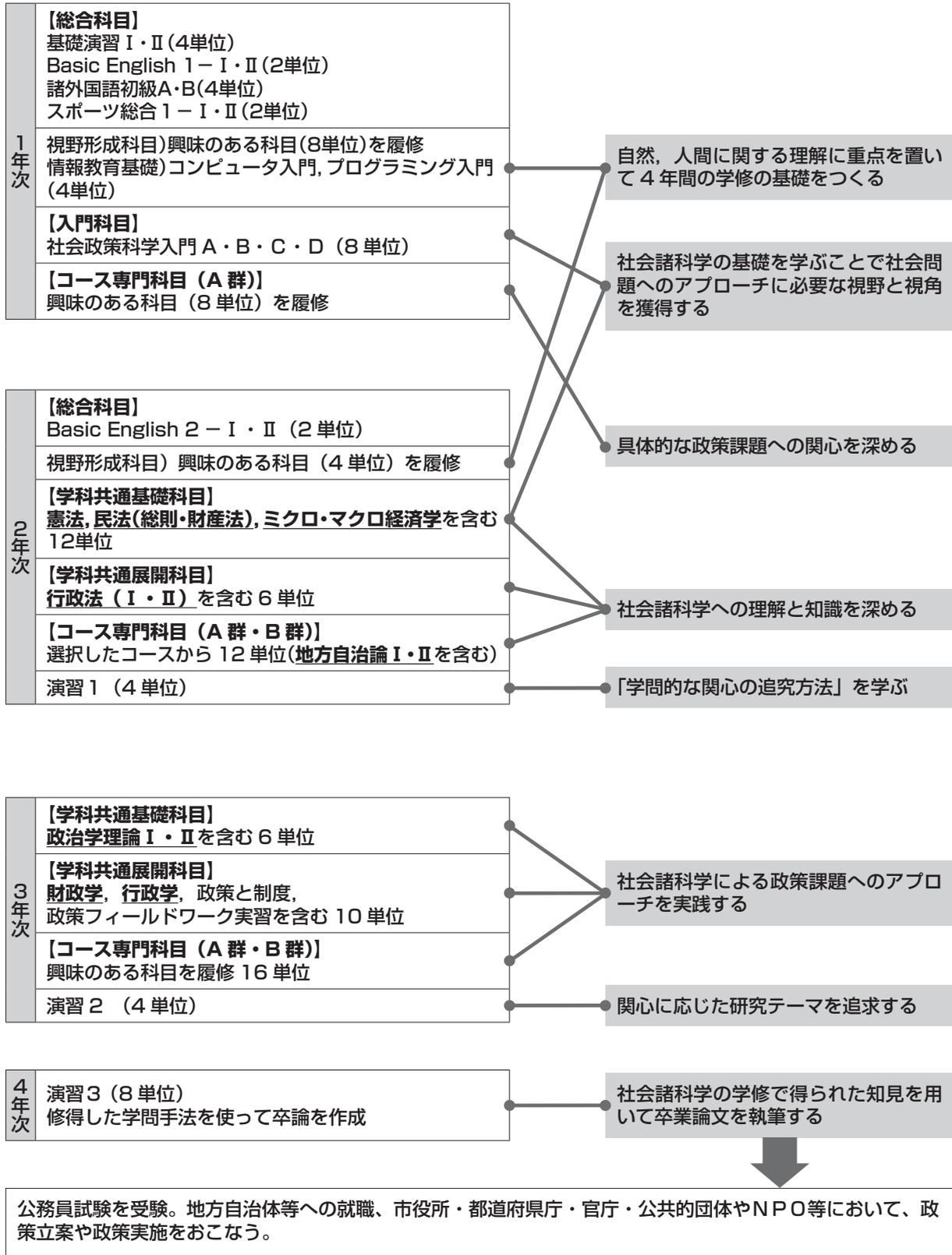


図1-3 履修モデル：政策立案技能をもった公務員をめざす【公務員試験受験を視野に入れた学修】※



※ 公務員を目指すために、特定のコース等を選択する必要はなく、多くの社会問題に関心を持って幅広く学修してほしいが、下線を付した諸科目は、公務員試験で重要な科目となっていることが多いので、履修を強く勧める。